

# ぎょうだ 歴史系譜

105

行田の戦後史 ⑤

## 忍公園から本丸球場へ

忍城内の建物は明治6年(1873)競売にかけられ、三階櫓をはじめ二丸御殿、沼橋門などごとく解体されてしまいました。下荒井(現城西2-3あたり)にあった忍東照宮も藩主松平家の管理下を離れ、明治7年現在の地に移転しました。

ここは元来諏訪曲輪といい諏訪神社が祀られていましたが、東照宮の移転により参道などが整備され、

一帯を公園として開放するようになり成田公園と名付けられました。明治21年、熊谷忍道(現国道125号線)の開通により公園は南北に分断されましたが、同30年名称を忍公園と改め、土塁の補修や桜などの植林が進み、休憩所なども建設されました。周辺の堀が埋め立てられ往事の面影を失っていった忍城址にとって、江戸時代の名残を偲ぶ場所ともなっていました。

戦後、忍公園の拡張工事を行い、様々な競技ができる広場にしようという計画がもちあがりまし。昭和22年(1947)3月、忍町から埼玉県へ公園拡張許可の申請が出さ

れ、公園内の池沼の埋立などの許可が下り、工事が開始されました。本丸東側の土塁が崩され、堀も埋められ平地となり、忍城址の景観は一変しました。

昭和24年10月、市営球場落成披露を兼ねた県下都市対抗軟式野球大会が開催されました。この球場が、昭和60年まで少年野球をはじめ、様々な野球大会で多くの人々に利用されてきた本丸球場です。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)



戦前の忍城本丸址

# 50m

古代蓮会館展望台

からのパノラマ

20

一足利市・桐生市近郊の山

写真では雲に隠れて見えませんが、日光白根山から更に左に連なる山は錫ヶ岳(2,388m)です。この左のなだらかな山稜は足尾の奥にある庚申山(1,892m)です。この下をよく見ると三つの山稜が見えます。二番目の山稜は足利の町の北にそびえる山で、織り姫神社の裏から段々と高くなっていき奥の山が行道山(441.7m)です。この右奥の山は赤雪山(620m)で、足利北西部の松田川上流に造られた松田ダムのある山です。更に左を見ると、遠くの高い山は去年9月号で紹介した皇海山で、左の山は袈裟丸山です。この間で手前の低い山は深高山(508m)、仙人ヶ岳(663m)、更に袈裟丸山の左側で奥から二つ目の山稜は桐生北部の鳴神山(979.7m)、この手前の山稜の右には足利の石尊山(486.4m)がありますが良く見えていません。

行道山には行基上人開基と言われる臨済宗の古刹、行道山浄因寺があり、裏山には寝釈迦などの石仏群があり、足利の街が一望でき、行道山まで40分程で登れます。この近くに名草の巨石群もあります。またこの北側には松田ダムがあり、ダムから30分余で赤雪山に登れます。また、近くの猪子トンネルの入り口から深高山へ、トンネルを通過して小俣町に向かう途中から石尊山へ登れますが、これらの山は4月初めにヤシオツツジや三つ葉ツツジ、山ツツジなどが登山道を飾ります。これら足利市近郊の山々は、いずれも1~2時間と手軽に登れる初心者向けのハイキングコースがありますので、足利を訪れた際に登ってみてはいかがでしょうか。低い山ですが、好展望が楽しめます。仙人ヶ岳は足利市と桐生市の境にある山で、猪子トンネルの先の岩切からのコースが一般的です。桐生市北部の鳴神山は固有種のナルカミスミレや、カッコソウ(桜草の仲間)などがあり、4月末にはヤシオツツジが山頂を彩ります。登るには4~5時間かかりますので山なれた方向きの山です。

(行田山の会会長 河田克巳)



埼玉県名  
発祥の地  
行田

■発行日／平成14年12月1日

■発行／行田市役所 〒361-8601 行田市本丸2番5号  
TEL 556-1111 FAX 550-2116  
ホームページ <http://www.city.gyoda.saitama.jp>  
iモード <http://www.city.gyoda.saitama.jp/i>

■編集／企画総務部企画課

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。問い合わせは、企画課広報聴係(内線318)まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をテープに録音したものを希望者宅に届けています。利用ご希望の方は、企画課広報聴係(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい大豆油インキ 古紙配合率100%再生紙を使用